

令和6年9月議会報告 全国学力・学習状況調査と教育の方向性

【調査結果と現状】

- ・全国学力・学習状況調査で、日田市の中学生は国語・数学とも全国平均を下回る。
- ・国語では要約力・文章構造の理解に課題。数学では思考過程の説明に弱点。
- ・読解力の低下は、生活習慣や情報環境の変化にも関連。
- ・ICT環境は全校に整備済みだが、活用度や成果には学校間で差がある。

【崎尾の質問・問題提起】 目的

- ・学力の変化を結果としてではなく、背景要因を含めて検討する必要性を提起。
- 主な着眼点
- ・読解力低下の背景として、スマートフォン利用やSNS的短文文化の影響を指摘。
 - ・学校・家庭・社会で「読む時間」が減少し、学習基盤の弱体化を懸念。
 - ・ICT導入は整備段階を終え、「どう使うか」「何を学ぶか」に重点を移す時期。
 - ・デジタル機器の活用が学習内容と乖離しないよう、効果検証の必要を提示。
 - ・教員のICT活用時間（396 532時間）、児童の活用時間（153 305時間）を確認。
 - ・学校間での支援・研修環境の差を課題として整理。

【主な提案内容】

- ・読解力を「思考・判断・表現力」の基盤として、教科横断的に育成する仕組みを検討。
- ・ICT教育の成果と課題を数値的に検証し、導入目的の明確化を求めた。
- ・教員研修・授業支援体制の再構築、学校間格差の是正。
- ・学校・家庭・地域が協働し、日常的に「読む機会」を確保する環境づくり。
- ・デジタルと紙教材の併用により、双方の利点を生かした授業改善を促す。

【市の答弁（要約）】 学力の現状認識

- ・国語・数学とも全国平均を下回るが、長期的には改善傾向を確認。
- ・「読む・書く・話す・聞く」を一体的に育成する授業づくりを進めている。

ICT教育の取組 ・教員研修を継続実施し、ICT活用力の向上を図る。

- ・ICT支援員4名が各校を巡回し、授業支援や教材活用を支援。
- ・学校ごとの活用格差を踏まえ、指導計画の共有化を推進中。

今後の課題と方向 ・デジタル教材と紙媒体の併用を基本とし、学びの均衡を保つ。

- ・読書活動の充実と家庭との連携を重視。
- ・学力向上を単年度でなく継続的に分析・改善する体制を整備する方針を示した。